

平成23年8月30日（火） 14時00分～16時00分 江別市民会館36号室

外部評価作業

- ①04-02 交通環境の充実
- ②04-04 市街地整備の充実

・出席委員

井上分科会長、洞澤委員、桑名委員

・説明員

① 星野課長（都市計画課）、八重崎所長（土木事務所）、加藤参事（雪対策）、似鳥課長（企画課）

② 星野課長（都市計画課）、似鳥課長（企画課）、菊谷課長（都心整備課）、伊東課長（都市建設課）

・事務局（政策調整課）

鈴木企画政策部長、米倉企画政策部次長、川島課長、稲田主査、佐藤主任、長谷川主事、馬場主事

会議録

・外部評価作業

- ① 政策04 安全で快適な都市生活の充実

- 施策02 交通環境の充実

- ・14:05～14:15 星野施策マネージャー説明

- ・14:15～14:55 質疑応答・指摘・評価

～評価項目についての指摘・提言～

▼施策04-02 交通環境の充実

【桑名委員】

施策の課題の中で「コンパクトな都市づくり」とあるが、年配の方に、ここで使う「コンパクト」の意味が分かるだろうか。

【星野施策マネージャー】

人口減少、少子高齢化の進行が都市に様々な影響を及ぼすことが考えられる。例えば中心市街地の衰退、公共交通の利用減少による路線廃止などがあるが、そういう中で、街の中心に人も施設も機能も集まった街づくり、これがコンパクトな都市づくりである。

【桑名委員】

内容は理解できるが、「コンパクトな都市づくり」という言葉が、今説明いただいたような内容で一般市民に理解してもらえるかどうか。

【洞澤委員】

例えば補足として括弧書きで「集約的」などと付け加えることなどもできる。

【桑名委員】

漢字の方がわかりやすい。どうしてもカタカナは便利でよく使われるが、ピンとくる人が多いかどうか疑問だった。今説明していただいた内容を漢字で説明してもらえるとわかりやすい。

【星野施策マネージャー】

内容や、加える言葉は検討していきたい。

【洞澤委員】

施策の環境変化の部分で、先に口頭で説明した「マスタープランが策定され」の後の説明が書かれていないが、入れた方が何を実現するかがわかりやすいのではないかと。

【星野施策マネージャー】

「道路交通の安全性及び円滑性の向上」と「公共交通の利便性向上に向けた取り組み」ということを説明したが、このマスタープランには様々なことがあるので、それを全てここに掲げることが難しい。

【井上分科会長】

難しいことを市民によりわかりやすく報告するので、一般市民がマスタープランとは何かという疑問を持たないような表現方法を検討してほしい。例えば、「安全性向上等のマスタープラン」や「～を含めたマスタープラン」などとすれば、この中にはいろいろあるということがわかるのではないかと。

また、施策の環境変化に「厳しい状況下に置かれている」とあるが、厳しい状況というのは、人口減少や高齢化の急速な進行だけが厳しいのか、財源的なものも含めて厳しいのか。厳しい状況というのは、市民にとってなのか、行政にとってなのか。

【星野施策マネージャー】

基本的には、財源的なことを言っているが、そのことがこの文章では読み取っていただけないのだろうか。

【井上分科会長】

逃げ道としてではなく、理解できるような厳しさにしなければならない。ここの言葉が少し足りないと思う。

【洞澤委員】

施策の環境変化で環境負荷の話があるが、このことが施策の課題にも他の基本事業にも出てこない。整合性が取れないので、都市計画課だけの問題ではないかもしれないが、これは何らかの形でどこかに書き込むことはできないのか。

【星野施策マネージャー】

例えば基本事業03の移動交通手段の中で、公共交通を利用することや、渋滞をなくすとか、移動をスムーズにすることが環境負荷の少ない交通環境につながるのかと思う。

【洞澤委員】

そうであれば、基本事業03の目的の部分などで公共交通機関は環境負荷が少ないなどと入れた方が全体的につながるのではないかと。

【星野施策マネージャー】

次期総合計画見直しの際に検討していきたい。

【井上分科会長】

施策の課題に対して、課題解決のために基本事業があるはず。課題の一番上が「人口減少や高齢化社会への移行に伴い、コンパクトな都市づくりが求められており、交通体系についても市域内アクセスの向上～」となっているので、これが一番上にあるということは、アクセスを向上させるための事業が一番大事なのかという感じがする。次に高齢者等の交通弱者の交通利便性が課題なら、事業の2つ目には高齢者対策的なもの、例えば基本事業03「移動交通手段の充実」がそれにあたるのであれば、文言もそれに近いものが入っていないと整合性が取れない。報告書としてのまとめ方を検討してもらえば、表現もおのずと変わってくるのではないかと思う。

また、最初の環境変化のところに「高齢化の急速な進行」とあるが、何%アップしたら急速になるのか基準はあるか。高齢化が進んでいることは事実だが、江別市が他の近郊都市と比べて急速なのか、道内の平均的な進捗状況なのかによって差があるし、それに対抗する事業として妥当なのかという問題が出てくる。「急速」とか「激しい」とか「厳しい」などの形容詞を使う時には、その裏側にどういうことがあるからこういう表現をしたということが説明できる使い方が大事だと思う。そこは検討してもらいたい。

また、成果指標のところ、市内の移動と市外の移動をあえて分ける必要性はどこにあるのか。

【星野施策マネージャー】

市内の利便性があるとか、市外、特に札幌近郊に行く交通網がしっかりしているかというのは、その目的によって市内と市外で分かれてくると思うので、市内と市外という分け方をしている。

【井上分科会長】

分かれてくると思う根拠は何か。

【星野施策マネージャー】

都市計画上の計画の中でも、市内交通がどうなっているのか、市外交通がどうなっているのか検証しながら今後の計画を進めていくということになるので、市内と市外という分け方が必要になってくるのかと思う。

【井上分科会長】

都市計画課としての考え方が基本にあると思うが、ここで政策の中にあるのは、安全で快適な都市生活で、市民の生活の中で都市交通がどうあるかべきかということ。江別市民が市内で消費生活や社会生活を営む上で不便はないか、それから少し広げた札幌市、近郊への社会参加をするためにどうなのかという捉え方で見ていくと、優先的なのは高齢者も増えてくるので、医療機関などを利用する生活ベースを作るために市内の交通網を充実させることだということが書かれていたうえで、市内の移動がどうか、市外の移動がどうかとあると、もっとわかりやすい。2つほとんど数値的に変わらない指標を並べる理由がわかるようなものはあるか。

【洞澤委員】

この指標を見て達成状況を見てみると、車やバスのお話が出てくる。市内なのか市外なのかというのは行政の考え方だが、公共交通機関やバスが不便ではないかとか、車の利

便性はどうか、又は日常生活の交通に不便していませんか、などの聞き方のほうが実情は出てくると思う。恐らく市内、市外と聞いた時には、車やバスなど違うものが一緒になっていると思われるので、数値としては同じになってしまう。そういった成果指標の方が、ちょっと厳しい数値が出るかもしれないが、将来的にはいいのかと思う。

【星野施策マネージャー】

市内市外という区分が必要なのかということだが、施策の目的の中では、交通環境を充実させることによって市内、市外の移動を円滑にということがあるので、成果指標としてはこういう掲げ方になるのが妥当だと考えている。

また、「市内の移動に困らない市民割合」という指標には、「江別市の道路は不具合が多い、または危険性が高いと思うか」という質問と、「市内で通勤、通学、買い物をするにあたっての交通手段（バス・電車・マイカー）がなく困っているか」という2つの質問の平均値を使っている。また、「市外の移動に困らない市民割合」の指標には、「札幌市へのアクセスについての満足度」という質問で、自動車を使用する場合と電車・バスを使用する場合の2つの場合の回答の平均値を使っている。

【井上分科会長】

そうすると、指標がこの2本だけではなく、あと1本ぐらいは立てようと思えば立てられるバックデータがあるということか。

【星野施策マネージャー】

バックデータはこのアンケートの中でこれに関係するものとしては、市内については2つのアンケート、市外についても2つのアンケートがある。

【井上分科会長】

では市内について2つ、市外について2つの合計4本の指標が作れるか。

【星野施策マネージャー】

次期総計でそのように指標を切り分けた方がいいということであれば、検討も必要かとは思う。

【井上分科会長】

施策の目的のところに、交通環境を充実させることで移動が円滑になるとあるが、その後が続いているのが安全性・利便性・快適性となっている。「移動に困らない」という指標は利便性に特化していると思われる。ならば安全性や快適性が見えるような指標もあればいいのではないか。指標の立て方に対してもう少し議論してほしい。

また達成状況のところで「冬期間の道路交通の確保～」とあるが、ここの文章が除排雪と関係しているというようには読み取れないのだが、どうか。

【星野施策マネージャー】

1月に大雪があったということをご存じだと思うが、年によって一時期に大量に降ったりということもあり、円滑化といってもその時だけをとらえると円滑化が図られていないということがあるので、特殊事情という言葉を使った。

【井上分科会長】

頑張っってやっていることはそう書いてもよいと思う。札幌市より江別市の方が除排雪がいいとは一般に言われている。頑張っってやっていることはアピールしてもよい。きち

んと除雪がされているということは、除雪対策のところで協議がなされているからであって、特殊事情下においても少し苦情はでるかもしれないが、スムーズに動いていることにより円滑化が図られているという、頑張っていることも達成状況には入れるべき。

▼基本事業01 「安全で快適な道路づくり」

【洞澤委員】

確認だが、先ほど「市内移動に困らない市民割合」という指標は、道路の不具合に対するアンケートと、市内の公共交通に関するアンケートを合わせたものだと言った。不具合に関するアンケートはとっているのに、ここの指標には使っていないのか。

【星野施策マネージャー】

「江別市の道路は不具合が多い、又は危険性が高いと思いますか」というアンケート設問に対しての回答を、成果指標「安全で快適に移動できる市民割合」として載せている。

【井上分科会長】

目的のところにある「自転車対策など」の「など」は放置自転車対策以外に何があるのか。

【八重崎土木事務所長】

駅周辺の放置自転車対策のほか、冬期間の除雪、道路清掃、自転車の置き方マナーの指導と維持管理などがある。

【井上分科会長】

「放置自転車対策などにより安全な歩行者空間を確保するなど人に優しい」という意味にとれるような表現の方がよい。歩く人が安全だということを言いたくて、歩行者空間といっているわけで、歩道が安全であることが目的の中で読み取れば、成果指標の不具合の数値が減っていけば安全な歩道になるということ。一番PRしたい言葉が絞られていない。こういうことをやっているというのを市民が読み取れるように書いてほしい。

【桑名委員】

放置自転車対策が目的にあるが、達成状況の中では歩行者のことに触れられていない。放置自転車対策の達成状況についてはどう考えているか。ここに入れてもいいのではないか。

【八重崎土木事務所長】

放置自転車対策は数年前から条例化しており、年に数回放置自転車を事前に警告カードを貼ったうえで、撤去している。冬に入る直前には駐輪場が閉鎖されるので、その段階では完全に自転車がないようにしている。

【洞澤委員】

目的には2点書いてあって、1つは歩行者によらず全般的な安全、そして2つ目に歩行者空間について取り出してあるが、達成状況を見ると、いろいろなことが1つになってしまっている。ここは整理して目的と合わせて、全般的な安全の話をまずしたうえで、

その後の歩行者空間の話の話を区切って2つに分けた方が見やすくなるのかと思う。

【井上分科会長】

書き方として、理解しやすいように書くことが報告書の大事なことなので、書き方を変えてもらうことによって、一番言いたいことが何なのかも整理できてくる。その点を検討してほしい。

【洞澤委員】

施策のところの対象が「市民及び道路利用者」となっていて、基本事業の対象が「市民、道路利用者」となっているので、統一してほしい。

▼基本事業02 「克雪による道路環境の整備」

【井上分科会長】

基本事業02の達成状況のところ「市民との協働で実施する自治会排雪などにより～」とある自治会排雪の協力状況というのは成果指標にできないか。報告書に進捗状況が数値的に出てくると、実施していない自治会は努力しなければというように、市民がもっと主体的に動いていく方に持って行ける。指標にはこうした働きもあるということを考えて、もし、実態を数値で把握できているのであれば、それを加えるようにしてほしい。

【八重崎土木事務所長】

自治会排雪だけでなく、間口のボランティア排雪についてもあわせて検討する。

▼基本事業03 「移動交通手段の充実」

【井上分科会長】

高齢化の関連で、事業者到低床バス導入を働きかけるなど、高齢者に対する移動手段の利便性を図るための検討会のようなものはあるか。

【似鳥企画課長】

江別には市営交通がないので、バス輸送システム検討懇談会に4つのバス事業者と江別、野幌、大麻地区それぞれの自治会長2名ずつに参加してもらって、行政と年1回から2回程度、情報提供や情報交換を行っている。低床バスについてだが、事業者が低床バスを導入した場合の補助はあるのだが、バスを取り換えることが事業者にとってはかなりの負担になるため、今のところ補助実績はない。

【井上分科会長】

事業者を動かすことは難しいと思うが、都市交通をどう考えるかというところに行政の思いがあるということが定着してくると、事業者が新しくバスを交換する時には、低床バスにしようという世論みたいなものを盛り上げることも見えるような報告書になればいいと思う。

～まとめ・評価～

【井上分科会長】

まず施策については、施策の環境変化、課題、目的、達成状況については、一部検討してもらおうということで、「概ね適切」でよいと思うが、いかがか。

【委員】

（同意）

【井上分科会長】

次に基本事業01、02、03については、いずれも文言等を見直すべきという指摘があったものの、評価は3つとも「概ね適切」でよいと思うが、いかがか。

【委員】

（同意）

② 政策04 安全で快適な都市生活の充実

施策04 市街地整備の充実

- ・ 15時05分～15時15分 星野施策マネージャー説明
- ・ 15時15分～16時00分 質疑応答・指摘・評価

～評価項目についての指摘・提言～

▼施策04 市街地整備の充実

【洞澤委員】

環境変化の一つ目に「都市構造に歯止めをかけ」とあるが、「構造」に歯止めをかけるというのはおかしい。構造が進んでいくのに歯止めをかけるのならわかるが。それから全体的に文章が硬い。あと、環境変化の三つ目に「バリアフリー化は着実に進んでいます」とあり、自然に進んでいっているように読み取れる。「着実に進めてきました」ということではないか。もうひとつ用語について、環境変化の二つ目に「駅等を中心としたコンパクトな市街地」とあるが、基本事業等を見ていくと駅以外のものは特に挙がっていないようだが、他に何かあるのか。無いのならば、「駅」としてしまうと何か支障があるのか。

【星野施策マネージャー】

駅を中心としたもう少し広い範囲という意味で「駅等」としている。

【洞澤委員】

日本語として「駅等」というと、駅と別の物という意味になる。そうであれば例えば基本事業04の対象の欄で「駅及び駅周辺」という用語を使っているのだから、こちらの方が分かり易いのではないか。

【井上分科会長】

基本事業03に公園が入っているので、環境変化の中で、公園をどのように捉えており、どのように整備していくのかが読み取れる記載が無ければ、大事な基本事業として位置付ける意味が見えにくい。同じように施策の課題の記述も公園整備とリンクしているかどうかが見えにくい。快適な都市生活をする市民にとって、公園はどのような課題を持っているのか、環境変化ではどのような位置づけにあるのかということ、基本事業の一つとしてある以上ここに記載される必要がある。

【洞澤委員】

基本事業03の公園の話と基本事業04の景観の話というのは、環境変化と課題のところには出てこないが、施策の目的のところにも「魅力的な市街地やまち並み」とあることから、環境変化と課題のところにも快適・魅力的という話を何とか入れられないものか。

【井上分科会長】

対象には市街地しかないが、市街地の中に公園も含むということか。

【星野施策マネージャー】

根本的に環境変化や課題の欄を記載するとき、基本事業01～04を意識した記載にしていないので、つながっていないのかと思う。

【井上分科会長】

では、そのあたりはつながりが見えるように記載のし方を見直していただきたい。

施策事業コストについて、平成21年度決算額に比べて平成23年度の当初予算がかなり増加しているが、顔づくり事業の関係で増加しているという見方でよいか。

【菊谷都心整備課長】

江別の顔づくり事業の関係で、平成22年度までは事業の初期段階であったが、平成23年度から区画整理事業を大きく進めようとする年度になることから予算が増加している。

【洞澤委員】

施策の課題のところで、ちょっと言葉が硬くて理解しにくい。たとえば「都市経営コスト」とあるが、維持管理コスト以外に何を想定しているのか、もう少し言い換えができないものか。もうひとつ、「都市的土地利用及び土地利用転換」も言葉が硬く、専門用語・行政用語であり市民には分かりにくい。

【星野施策マネージャー】

「都市基盤施設の維持管理コスト」は、道路や公園、ライフラインなどの都市の基盤となるものが老朽化してきて維持管理コストがかかると、そういった中で全体として都市経営をしていくためのコストが増大していくという意図で書いたが、ご指摘のとおりわかりづらい表現だと思うので、見直していきたい。

【井上分科会長】

「都市構造」などもそうで、聞けばそうかなと理解できるが、説明を求められるとすぐには説明できない、というのはいかかなものかと思うので、一般の人がイメージできる表現が大事。それが使いにくければ括弧書きで説明ということでも良いかと思う。

【洞澤委員】

環境変化と課題のところを他と整合性を持たせるやわらかい表現にするためには、「まちづくり」や「まち」という表現を平仮名で色々なところで使っているの、それをうまく使って文章を書いた方が良い。

【井上分科会長】

これは都市計画課だけでなく、江別市全体としてどう表現するか統一していかなくてはならない。いろいろな他の報告書等を含めて、もう一度ご検討いただき、統一していただきたい。

【星野施策マネージャー】

環境変化と課題の中の「都市」をすべて「まち」という表現方法にすべきということなのか確認したい。

【洞澤委員】

全部をそうするというわけではない。施策の目的の言葉と合う形で、全体のトータルな部分の環境変化と課題は書かなければ、繋がりがわからない。例えば、一般的な大枠で具体的なことを指さないときには「まち」・「まちづくり」というやわらかい用語を使って、具体的な話をするときにはちゃんとした用語として「市街地」や「都市再開発」などの用語を使えばよいということ。

▼基本事業01 「江別の顔づくり」

【桑名委員】

目的と対象に「都心地区」とあるが、どこを指して都心というのか。「都心」というと人によって考えが違ふと思うが、やはり野幌のことか。

【菊谷都心整備課長】

野幌駅周辺を中心とした約240ヘクタールを都心地区及び中心市街地という位置づけで事業を進めている。

【洞澤委員】

野幌地区と言い換えることはできないのか。

【菊谷都心整備課長】

野幌地区というと、事業で対象としている範囲より更に広範囲となるため、都心地区という表現にしている。

【洞澤委員】

顔づくり事業は野幌だけか。江別、大麻と続くのか。

【菊谷都心整備課長】

野幌駅周辺を対象にしている。

【桑名委員】

では野幌駅周辺という言い方でいいのではないかと。都心というとピンと来ないと思う。

【菊谷都心整備課長】

ご指摘の通り、確かに都心地区という表現だけでは分かり辛いと思うので、今後括弧書き等の補足を含めて記載を検討させていただく。

【井上分科会長】

成果指標の三つ目に「中心市街地の店舗延べ床面積」とあるが、これを成果指標とする意図は何か。

【菊谷都心整備課長】

野幌駅周辺を中心市街地として、市民の皆さんに集っていただけるまちにしていくことを事業目的のひとつとしていることから、地域活性化の支援により小売店舗等が出店しやすい環境を整え、小売業・卸売業・飲食店等の店舗の延べ床面積を増やして、中心市街地での買い物や飲食等の利便性の向上を示す指標として設定している。

【井上分科会長】

店舗数ではなく床面積としている意味を教えて欲しい。床面積が増えれば経済活動の活性化が図られたといえるのか、疑問である。店舗数の方が適切ではないか。

【洞澤委員】

おそらく床面積というのは営業している、していないは関係ないと推測する。事業により床面積が増えた、というのは市街地整備所管課からすれば確かに成果となるが、実際は顔づくり事業はもっと大きな事業で、色々な人が駅前に来て活性化するということが目的であるので、やはりどれだけの店舗が営業しているかという方が現実的な指標かと思う。

【井上分科会長】

目的に「経済活動」と書いてあるので、活性化ができるための指標が欲しい。床面積だけだと何に使うために数値を出しているのか疑問である。

【菊谷都心整備課長】

当初、指標を設定する際に店舗数ということも考えられたが、一方で駅周辺の土地区画整理事業によって新しい土地利用を展開していくという側面もあり、利便性の高い土地活用という要素と商店街の活性化という要素を併せ持った指標として、店舗の延べ床面積という指標を設定した。

【井上分科会長】

意図することはわかるが、この報告書に指標として載せておくことの意味が分かりにくい。数値はバックデータとしては是非あった方が良いが、載せる意味をはっきりさせてから載せた方がよい。

【菊谷都心整備課長】

次期総合計画策定の際に検討させていただく。

▼基本事業02 「計画的な土地利用の推進」

【洞澤委員】

2つ目の成果指標の欄に記載の「前期4年間」というものの、前期というのは何か。

【事務局（川島政策調整課長）】

総合計画が平成16年度から開始しており平成20年度までを前期5年間、平成21～25年度までを後期5年間という設定で構成されており、初期値として後期計画策定時に取得できた値が平成19年度の値ということで、そこまでの累計で前期4年間ということである。

【洞澤委員】

では前期4年間というのは他の施策等でも使っている用語ということか。

【事務局（川島政策調整課長）】

使っている。

▼基本事業03 「安全で憩える公園の整備」

【桑名委員】

意図のところで、「リニューアル」というのは全く新しい施設に取りかえてしまうのか、それとも既存の施設を整備して使うのか、あるいはその両方か。この言葉だけでは分かりにくいので、括弧書き等で補足していただけると分かり易くなると思うが。

【伊東都市建設課長】

再整備ということの意味している。遊具等公園の一部が新しくなるということも含むが、公園全体としては更新・再整備していくという趣旨である。

【井上分科会長】

公園というのは憩えるというだけの場所なのか。今回の東北のような災害があった場合に、公園というのは瓦礫置き場やテント設営の場としてなど様々な公的役割を果たしている。防災で役に立つ公園もあれば、子どもたちが憩う公園、地下に貯水槽を設けるなどインフラ整備のための公園などもある。このようなことも、これからは公園の役割として公園を管理する目的の中に文言として入れていただくと、リニューアルするとき意見が沢山出てくるだろうし、予算を沢山かけたとしても理解を得られる。

もう一つは、少子高齢化の中で安全で憩える場所というのは、身近なお年寄りのコミュニケーションの場であったり、地域コミュニティとしての活用が出来たり、保育に関しても公園を使うということが大事になってくる。「憩える」の中身にそういう福祉的な部分も加えていくと成果指標の二つ目にある「市民と協働で管理」していく意味合いが深まると思う。ここの意味を厚くできるような表現を報告書に盛り込んでもらいたい。公園というのがいかに市民にとって必要な場所なのかを表現していただきたい。

【洞澤委員】

意図で「公園を増加、(中略)する」となっているが、これは「増加させる」だと思う。もう一つ、市民との協働について、協働で管理をしている公園数はわかるが、協働で整備をしている公園というのは現在あるのか。

【伊東都市建設課長】

毎年一か所、再整備のときに地域の自治会の方、いわば市民の方を交えてどういった公園にしていくのかという議論をワークショップ形式で行っており、次の年にその結果を現場に反映させるという公園づくりを行っている。

【洞澤委員】

そうであれば、ぜひ達成状況のところにそのことも加えた方が良い。

【井上分科会長】

指定管理者により管理している公園は228公園ある中のいくつか。

【伊東都市建設課長】

指定管理者による維持管理は228公園である。その他に指定管理者とは別に、アダプトプログラムという公園の里親制度の中で市内76公園について、公園やトイレの清掃などの維持管理を自治会など33か34団体にいただいている。

【井上分科会長】

それは年々増えているのか。

【伊東都市建設課長】

年々増えている。成果指標の二つ目の「市民と協働で管理している公園数」がその数値である。

【井上分科会長】

全体の約3割を目標にしているということだが、そういうのが見えるとよい。市民がこうして地元の公園を管理しているのが3割もある、であれば自分たちの公園はもっと大事に使おうという意識の醸成ができる。そういうものも指標に見えてくると、報告書を見ていて楽しくなる。一生懸命やっていたのに表現がもったいない。

【伊東都市建設課長】

次期総合計画策定に向けて検討させていただきたい。

▼基本事業04 「人にやさしく、わかりやすい街並みづくり」

【井上分科会長】

「わかりやすい街」、というときに例えば案内表示や地名表示板を作るということも含めての景観という部分があるかと思うが、このことをチェックできるものは何かあるか。

【似鳥企画課長】

市民アンケートの項目には、町名板などを含んでいる。

【洞澤委員】

目的にある「特別特定建築物」とはどのようなものか。

【似鳥企画課長】

跨線橋や郵便局などだったかと思う。

【桑名委員】

あまり聞き慣れない言葉である。括弧書きで補足していただきたい。

【井上分科会長】

直接的には福祉関連かもしれないが、バリアフリーに関して歩道における点字案内の施工率というのはわかるか。

【似鳥企画課長】

私の方ではデータを持っていないが、今のところ江別市のバリアフリーは、江別・野幌・大麻の乗降客数が5000人を超える駅を中心に半径500メートルを重点整備地区としているため、街全体の点字ブロック施工率等を指標とはしていない。

【洞澤委員】

目的や意図には景観が入っているが、達成状況では景観に触れていない。指標に現れないからかもしれないが、それでも取組みについては記載した方が良いと思うがいかがか。景観賞などの市民意識醸成だと思うが、それに関するアンケート等は取っていないのか。

【星野施策マネージャー】

アンケートとしては取得していない。

【洞澤委員】

もしあれば入れたらどうかと思ったが、特に無いのであればかまわない。

～まとめ・評価～

【井上分科会長】

まず施策については、構成する基本事業の内容に即して記載のし方を見直していただきたいということで「要検討」とすべきと思うが、いかがか。

【委員】

（同意）

【井上分科会長】

次に基本事業01については、用語の見直しや成果指標の検討について指摘があったので、「概ね適切」と思うが、いかがか。

【委員】

（同意）

【井上分科会長】

基本事業02については特に指摘が無かったので、「適切」との評価でよいか。

【委員】

（同意）

【井上分科会長】

基本事業03については、少しご検討いただきたい部分があったので、「概ね適切」という評価でよいか。

【委員】

（同意）

【井上分科会長】

基本事業04については、「特別特定建築物」については少し分かり易くしていただきたいが、内容については「適切」と思うが、いかがか。

【委員】

（同意）

16:00 終了。